

# 交通・地域振興グループ

交通・地域振興グループの質問を始めます。

私たちのグループは、広島空港の利用拡大、埋め込み信号と信号機のLED化、使われなくなった施設を利用した地域の活性化、スポーツの振興について話し合いました。

このことについて、4つの質問をしたいと思います。

## 質問1 広島空港の利用拡大について

広島空港は、山奥にあるため、広島市内や県内から空港に行くのに時間がかかり、とても不便だと聞きました。そのため、大阪など比較的近い人は新幹線で広島に来て、北海道などの遠くの方は広島に来づらくなっているのだと思います。

そこで提案です。空港へのアクセスをよくするために、リムジンバスの便数を増やすことと、もっと広島空港を便利にするため、飛行機の便数も増やしてはどうでしょうか。

そうすることで、遠くの方も広島県に来やすくなって、利用者が増え、広島空港の需要が高まって、広島県が栄えたらいいなと思います。

## 答弁（知事）

ご提案いただいたとおり、今後、広島空港をもっと便利にしていくためには、空港へのアクセスをよくすることや、国内や海外を直接結ぶ魅力的な航空路線が増えることがとても重要であると考えています。

現在は、新型コロナウイルスの影響で人の移動が少なくなっているため、飛行機の便数の減少や運休が続いており、空港の利用者数も、感染症拡大前の平成30年度は約298万人でしたが、昨年度は約73万人と大幅に減っている状況です。

こうした中、今年7月から広島空港が民営化されました。新しく空港を運営することになった会社が30年後までに広島空港をどのように発展させていくか計画を発表しています。

この計画の中では、空港へのアクセスについては、広島方面からのバスの便数を更に増やすことや、県内のほか、中四国地方の主な観光地などを結ぶ新たなバス路線を

増やしていくことなど広島空港を便利にするための取組を進めていくこととしています。

広島空港は、県の中央に位置し、東西南北に走る高速道路への接続もよく、県内はもちろん、山陰や四国からもとても便利な場所にあります。

この強みを生かし、広島空港が中四国地方における海外との空の出入り口として、多くの人に利用してもらえるよう、現在は5路線の国際線を、30年後には22路線に増やすことを目指しています。

その路線の中には、ハワイやフィンランドといった中四国地方のほかの空港にはない路線も含まれています。

さらに、空港の中には、レストランやお土産屋さんも増えて、空港自体が楽しい施設となるよう計画しています。

広島空港をより使いやすくして、「広島空港から出発したい!」とか、「飛行機を利用して広島に行きたい!」と思ってくれる人がもっと増えるように県や広島空港を運営する会社をはじめ、地元関係者が一体となって取り組んでいくこととしています。

今後は、もっと便利で魅力的な広島空港に生まれ変わり、より多くの人に広島のよさを知ってもらえるようになりますので、期待していただきたいと思います。

コロナウイルスが落ち着いて、旅行を計画する際には、皆さんも是非、広島空港をご利用ください。

## 質問2 埋め込み信号と信号機のLED化について

まず、埋め込み信号についてです。

全国では、スマホ事故が令和元年に2,645件も発生しています。

こうした事故は、歩きながらスマホのマップを見るなど、いわゆる歩きスマホが大きな原因の一つになっています。私も広島市内で、スマホを見ながら横断歩道を渡っている人を見かけ、ひやひやしたことがあります。

そこで1つ目の提案です。歩きながらスマホを見るのが習慣になっている人が多いため、それを変えることはなかなか難しいので、横断歩道の路面に信号のライトを埋め込んで、歩きスマホをしている人が横断歩道を赤信号で渡らないような工夫をしてはどうでしょうか。

この埋め込み信号は、すでにドイツ、オランダ、シンガポールなどで取り組まれており、信号機が路上にあるという概念にとらわれないアイデアで、歩行者の交通事故

を減少させることができます。

次に、信号機のLED化についてです。

最近、信号機がLED信号機に代わってきているのをよく見ます。LED信号機の普及率は、広島県では車両用が37.4%、歩行者用が30.5%にとどまっていますが、東京都においては100%です。LED信号機は、電球式の信号機に比べ、LEDが省エネルギーで、見えやすいため、交通事故防止に役立つと言われています。でも、いいことばかりではありません。

最近、私は、目の不自由な方から、LED信号機はまぶし過ぎると聞きました。また、発熱が少ないため、大雪が降ると雪が溶けずに付着して、信号が見えにくくなります。そのため、山形県ではLED信号機にヒーターをつけて、着雪を防ぐ工夫をしています。

そこで提案です。広島県がLED信号機を設置するときは、住んでいる人の年齢などにより、信号機の明るさを調整したり、設置場所を工夫するなど、地域の実情に応じた配慮をしてはどうでしょうか。

こうした取組により、環境にも人にもやさしいLED信号機の設置が進み、便利でみんなが住みやすい広島県になるといいなと思います。

答弁（警察本部長）

まず、埋め込み信号についてお答えします。

交通事故は、事故に遭われた方のみならず、そのご家族からも、幸せな日常生活を奪ってしまう悲惨なものです。

信号機を設置・運用している目的は、交通事故を防ぐことや車の流れをスムーズにすることですが、そのためには、道路を利用される皆様に交通ルールや交通マナーを守っていただくことが大切です。

議員から御提案のありました埋め込み信号は、足元の道路に埋め込まれた装置で歩行者用信号の状態を確認できる仕組みであると考えられます。

視線を上げなくても歩行者用信号の状態を確認できるという特徴から、歩きスマホによる信号無視を原因とする交通事故を防止するため、一部の国で導入されているようですが、歩きスマホの危険は、信号無視を原因とする交通事故だけではなく、

スマートフォンの画面に集中するあまり、転んだりすることによる怪我、ひたたくりや盗撮などの犯罪被害につながるばかりでなく、自転車や他の歩行者とぶつかるな

ど、他の人に危険を及ぼすおそれもある行為です。

道路を利用する誰もが安全に通行できるよう、やむを得ずスマートフォンを利用する場合でも、必ず立ち止まり、周りの安全を確認するなど、安全な利用をお願いしたいと思います。

なお、先ほど議員から御提案がありましたとおり、現状や過去の事例などにとらわれないアイデアで、様々な課題が解決できる場合がありますので、県警察といたしましては、柔軟な発想や多様な視点を忘れることなく、効果的な交通安全対策を実施したいと考えています。

次に、信号機のLED化について、お答えします。

LED式信号には、様々なメリットがあることから、広島県においても整備を進めているところですが、設置方法によっては、そのメリットを十分に発揮できないおそれがあります。

そのため、議員からご提案がありましたとおり、信号機を設置する道路や周辺環境のほか、利用される皆様への配慮を忘れることなく設置方法の検討を行うことが非常に大切であると考えています。

LED式信号につきましては、従来の信号にあったひさしなどがなく、厚みを薄くした最新型のLED式信号を設置することにより、雪が積もることや台風などの強風で取り付け角度が変わることにより見えにくくならないよう配慮しています。

それから、視覚に障害のある方に寄り添った御意見を頂いたことから、視覚障害者の団体に確認をさせて頂いたところ、多くの視覚に障害のある方にとっては、信号は明るいほうがよいのではないかと御意見を頂いたところです。

道路を利用されるドライバーや歩行者の皆様に、信号の状態を明確にお知らせすることがとても大切であることから、明るさを低下させることは難しいと考えているため、信号の状態を音声でお知らせする音響式信号機を設置することにより、視覚に障害がある皆様を含め誰もが安全に道路を通行できるよう配慮をしています。

県警察といたしましては、こうした取組により、道路を利用する皆様が安全に通行できる道路交通環境の実現に努めたいと考えています。

### 質問3 使われなくなった施設を利用した地域の活性化について

私が小学1年生のとき、学校の社会見学で科学館に行きました。

そこは、もとは小学校で、海辺の自然について学習しました。

私が住んでいる音戸町は、10年前には8校の小学校がありましたが、現在は、子供や若い人が少なくなって、3校になってしまいました。その他にも使われなくなった施設は県内にたくさんあると思います。

そこで提案です。廃校など使われなくなった施設を利用して、科学館、オフィス、カフェ、美術館、保育所など、市町と協力して人が集まる場所にしてはどうでしょうか。

そこで、私は将来、牡蠣の養殖について知ってもらいたいです。牡蠣の養殖に興味を持ってくれた人たちが、養殖の仕事に就いてくれ、地域ににぎわいや活気があふれたらいいなと思います

#### 答弁（地域政策局長）

使われなくなった施設を利用した地域の活性化についてお答えします。

少子化が進む中、学校の統廃合により使われなくなった校舎などの施設が増加しています。こうした施設を地域の資源として、コミュニティを強化していくことや、仕事づくりの場として積極的に生かしていくことは地域の活性化を図っていく上で、有意義なものと考えております。

そのための具体的な取組を申しますと、本県が平成29年に開催した「ひろしま さとやま未来博」においては、地域内外の方々の知恵と工夫の下、三原市大和町、庄原市西城町及び江田島市沖美町において、廃校など3つの施設の改修を行いました。これらの施設は、現在も、地域の交流拠点として活用されております。

また、地方での拠点を求める首都圏の企業に、短期間滞在して、その地域での勤務を体験できる施設を提供するため、呉市下蒲刈町、三次市三良坂町及び庄原市比和町などにおいて、県と市町が連携し、空き施設などの改修に取り組んでいるところでございます。

さらに、県の人づくり事業において、地域での活動に意欲的に取り組む人材を育成しています。そうした方々によって、世羅町では、地元のお茶をメニューとするカフェ、大崎上島町では、移住者を対象とした、複数の人が共同で暮らす、シェアハウスなどに、空き店舗や古民家を活用する事例も増えてきており、県内各地で、それぞれ異なる手法や目的で、空き施設を生かす取組が進んでいます。

これらの取組を通じて、サテライトオフィスの進出による雇用の創出、地元産品の復活、移住者の増加などの効果が生まれています。

これらの取組を進めていくためには、施設の利用目的に応じて、例えば、インターネットの利用環境の整備をどうするか、地域の方々の理解や積極的な協力をどう得ていくかなどを考えておく必要があります。

こうした検討課題を、一つ一つ解決しながら、今後とも、廃校などの施設の有効活用が、地域の活性化につながっていくよう、市町と協力して取り組んでまいります。

#### 質問4 「スポーツの振興」について

皆さんは覚えていますか、カープが優勝した時のことを。平成28年から平成30年には、3年連続セリーグで優勝しました。あのとき、広島県のどこでもカープの話題でいっぱい、みんなが笑顔で楽しかったと思います。しかし、今、カープは6チーム中4位です。サンフレッチェは、20チーム中10位です。

昨年から続く新型コロナウイルスの影響もあって、なかなか応援に行けないこともあり、広島県のスポーツは元気がなくなっているように思います。カープが弱いことだけが原因ではありません。私の周りでは、暇があればみんなスマホでゲームをしていて、最近、スポーツをする子供が減ってきているように思います。

そこで提案です。身近で手軽にスポーツができる施設を整備するなど、子供たちがいろんなスポーツができる環境づくりをしてはどうでしょうか。

そうすることで、スポーツをやりたいと思ったときに始められたら、子供たちがスポーツを好きになります。将来は、広島県からオリンピック選手や大谷選手のように世界で活躍できるスポーツ選手が出て、他県からもスポーツをしに広島県に来るといふ日本一のスポーツ王国になればいいなと思います。

#### 答弁（地域政策局長）

カープやサンフレッチェなどの県内プロチームやトップアスリートの活躍を見て、支えることは、県民の一体感を高め、地域への愛着や誇りに繋がるものであると思います。

また、子供の頃からスポーツを「する」ことは、体力や運動能力の向上を図るうえでとても大切なことです。

そのため、本県の子供たちが身近にスポーツに取り組む環境づくりとして、県内のスポーツ施設を活用したパルクール教室など様々な体験プログラムの実施や県立学校の体育施設を地域のスポーツクラブに開放するなど既存の施設を活用した取組を行っ

ています。

また、子供から高齢者まで誰もが気軽にスポーツを楽しめる総合型地域スポーツクラブの設置運営の支援、県内小学生を対象とした、バレーボール競技などのトップアスリートから直接指導を受けられる「スーパージュニア選手育成プログラム」の実施に取り組んでいるところです。

加えて、県では、「もっと笑顔にひろしまを。スポーツの力で！」をビジョンにかかげ、「スポーツアクティベーションひろしま」という組織を立ち上げ、三次市や廿日市の女子野球などスポーツを通じた地域活性化に取り組んでおります。その中で、ジュニアアスリートの活躍や子供たちがスポーツに興味を持つ情報なども発信しております。

県としましては、日本一のスポーツ王国になることを目指して、世界の舞台で活躍するトップアスリートが広島県から多く生まれることを期待し、夢を持ってスポーツにチャレンジする子供たちを全力で応援してまいります。